

平成28年3月24日

診療科長 医局長
病棟医長 外来医長
中央診療施設副部長 殿
看護部長 看護師長
事務部長

検査部 サテライト検査室

検査部回報No. 36

検査内容変更のお知らせ

(オステオカルシン・レムナント様リポ蛋白コレステロール・
IntactP I NP・MAST33)

採血容器変更のお知らせ

(ビタミンB1 (チアミン)・ビタミンB2 (リボフラビン))

検査中止のお知らせ

(遊離脂肪酸 (NEFA))

下記の検査項目が下記期日より検査内容が変更されますので、ご案内いたします。

詳細は、添付資料をご参照ください。

記

項目名： オステオカルシン
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)
インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド
(Intact P I NP)
MAST33
ビタミンB1(チアミン)
ビタミンB2(リボフラビン)
遊離脂肪酸 (NEFA)

開始日： 平成28年4月1日 (金) 受付分より

オステオカルシン

現試薬の販売中止に伴い、Non-RIA試薬に変更します。

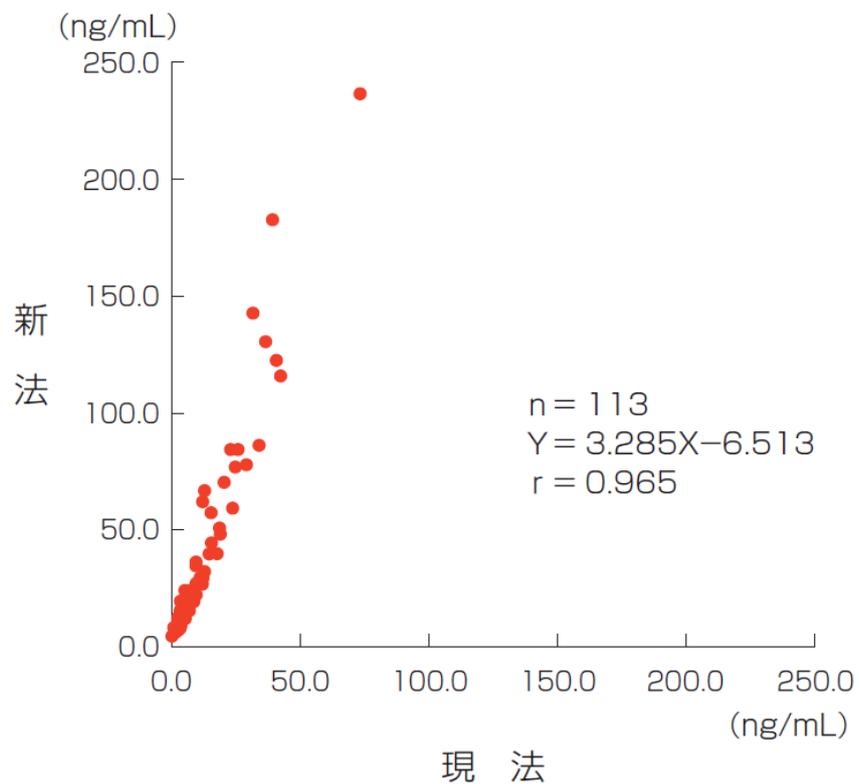
新基準値は文献値です。

オステオカルシン（OC）は骨芽細胞から分泌され、血中では完全分子のインタクトオステオカルシンのほかに、様々なフラグメント（断片）として存在します。現RIA法ではインタクトオステオカルシンを測定対象としていますが、新法では、インタクトオステオカルシンとフラグメント（N-MID）の双方を認識部位としています。

変更内容

	新法	現法
検査方法	ECLIA	RIA 固相法（IRMA）
基準値 (ng/mL)	閉経前女性 7.8~30.8 閉経後女性 14.2~54.8 男性 8.4~33.1	2.5~13

現法と新法の相関



レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)

より特異度の高い測定試薬に変更します。基準値に変更はありません。

変更内容

	新法	現法
検査方法	酵素法	免疫吸着法

インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact P I NP)

新規項目 (I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P I NP)) の検査開始に伴い、Intact P I NPの検査を中止します。

以降はtotal P I NPでご依頼下さい。

total P I NP ではP I NPの三量体および単量体を検出しますが、単量体はごくわずかであると推察されているため、三量体のみを検出する従来のIntact P I NPとの相関は良好です。

検査項目名	I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P I NP)
検体量	血清 0.4 mL
検査方法	ECLIA
基準値 (単位) (ng/mL)	男性(30~83 歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44 歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79 歳) 26.4~98.2
溶血検体の場合、データが低値傾向となります。	

MAST33

新規項目 (MAST36) の検査開始に伴い、MAST33の検査を中止します。

新たにアレルギー (アスペルギルス、トマト、モモ) が追加されます。

以降はMAST36でご依頼下さい。

アレルギー一覧

コナヒョウヒダニ、ハウスダスト1、ネコ皮膚、イヌ皮膚、オオアワガエリ、カモガヤ、ブタクサ混合物 1、ヨモギ、スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ、カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、ラテックス、トマト、モモ、キウイ、バナナ、ゴマ、ソバ、小麦、ピーナッツ、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、豚肉、牛肉、鶏肉、オボムコイド、卵白

ビタミンB1（チアミン）・ビタミンB2（リボフラビン）

全血凍結検体の容器破損防止ならびに遮光の取り扱いを考慮し、遮光容器へ変更します。

新容器	現容器
B-34	EDTA5ml・緑ヘパリン
	

遊離脂肪酸（NEFA）

実施料削除のため、検査受付中止となりました。

以上

上記についてのお問い合わせは、サテライト検査室（内線7409）へお願い致します。